

第3回  
定例会

## 一般質問

第3回定例会の一般質問は、9月10日、11日、12日の3日間行われ、13名の議員が登壇し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、執行部に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をただすため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。



小森谷 博之 議員

## 幼児教育・保育無償化に伴う待機児童の対応について

**問** 本年10月より幼児教育・保育無償化が実施される。今まで保育料を気にして働きに出るのをちゅうちょしていた母親や、保育料が家計を圧迫していた世帯にはありがたい施策であり、共働きが増えることにより、保育施設に預ける親が増加することが考えられる。市ではどのように対応していくのか。

**答（健康福祉部長）** 3歳以上児

全員、ゼロ歳から2歳児の住民税非課税世帯が対象となる。主に影響のある3歳から5歳児の31年4月1日現在における保育所、幼稚園等の受け入れ可能定員3,656人に対し、人口は3,317人と定員のほうが多い。3歳以上の児童は課題が生じる見込みは低いですが、満3歳での入園は増加することも予想されるため、各施設の受け入れ状況を把握しながら対応していきたい。

## 潜在的待機児童への対応について

**問** 厚生労働省によると待機児童は16,772人、一方で待機児童に算入されない潜在的待機児童は約74,000人いるとされ、依然2つの数字の差が大きくなっている。そこで、古河市の現状と、

今後どのように考えるかを伺う。

**答（健康福祉部長）** 平成31年4月1日現在の待機児童は15名で、ゼロ歳から2歳児である。

潜在的待機児童は238名で、内訳は、育児休業期間中で入所を要しない児童が73名、認可保育施設と同等の施設入所の児童が20名、第1希望のみの入所申請等特定の保育施設希望の児童が145名である。市としてまずは本来定義の待機児童の解消に努め、産み育てやすい古河市を目指し、鋭意努力していきたい。

